

日本近世

貨幣史の研究

安国良一著

▼A5判・三三〇頁／定価：本体六、八〇〇円（税別）

ISBN978-4-7842-1848-6

【二〇一六年五月刊行】

日本の歴史上、近世ほど多種類の貨幣が流通した時代はない。金・銀・銭という幕府制定の「三貨」、近世初頭の大名領国にみられる金銀貨「領国貨幣」、藩札や私札の紙幣などを加えればその数は膨大である。さらに銭については、地域独特の数え方もあった。こうした複雑さのいっぽう、近世の権力は貨幣制度を確立したとも認識されている。本書は、この一見矛盾する貨幣の特質を明らかにすることを試みる。

近世貨幣はどのように生まれ、流通し、終焉をむかえたのか——。一国一通貨という貨幣観を解きほぐし、その独自の機能や意味づけを問う良著。

やすく・りょういち：一九五三年神戸市生まれ

一九八七年 京都大学大学院文学研究科博士後期課程研究指導認定退学

二〇一二年 京都大学博士（文学）

現在 住友史料館副館長

【主要著書】『京都町触集成』全一五巻（共編著、岩波書店）

『住友の歴史』上下巻（共著、思文閣出版）

『鼓銅図録の研究——書誌と系譜——』（住友史料館）

●予定内容目次●

序章 課題と方法

本書の課題／通貨への関心と貨幣史研究の動向／研究史にみる貨幣観／本書の研究視角／本書の構成

第一部 貨幣の統合と多様性

第一章 三貨制度の成立

一 三貨制度とは何か／二 儀礼的貨幣の系譜と定着／三 通貨の整備過程／四 武家の国家の貨幣体系

第二章 貨幣の地域性と近世的統合

一 幕府の貨幣と領国の金銀／二 京銭・銀銭による銭貨統合／三 銅銭輸出とその停止／四 新銭鑄造計画／五 寛永通宝の発行と流通

第三章 地域からみた近世中後期の通貨事情（一）

——播磨を中心に——

一 一七世紀における鉱山と銀の流通／二 一八世紀以降の貨幣流通の変化／三 札遣いの普及とその特色／四 播磨・安志藩銭札の貸付

第四章 地域からみた近世中後期の通貨事情（二）

——伊予の場合——

一 東予と別子銅山の流通貨幣／二 銭欠勘定の普及と藩札（銭欠札）の流通状況／三 幕末期の通貨変動とその影響／四 維新期—新たな統合へ—

第二部 貨幣の機能

第五章 金銀貨の機能とその展開

一 近世貨幣の特性／二 経済的機能の深化／三 対外関係と貨幣の政治的意味

第六章 貨幣改鑄と新旧貨引替機構

一 文政期、十五軒組合の設立を中心に——組合設立の前段階／二 十五軒組合の成立／三 組合による引替の開始とその実態

第七章 近世初期の撰銭令と銭貨の機能

一 江戸幕府撰銭令の系譜／二 幕府の街道・宿駅整備と撰銭令／三 銭の交通上の機能／四 京銭による銭貨統合の時代／五 寛永通宝の発行事情

第八章 貨幣の社会的・文化的効用

一 儀礼的貨幣の展開／二 身分的財の流動化／三 都市経済の展開／四 貨幣からみた都市文化

第三部 寛永通宝の鑄造と流通

第九章 寛永通宝の第一次鑄造について

一 新銭鑄造の動き／二 寛永通宝の発行／三 諸大名の対応／四 鑄造停止とその事情／五 寛永飢饉と銭貨流通

第十章 寛永期の大坂銭座

一 大坂における銭座の開設／二 銭座と錫輸入／三 銅輸出解禁への模索と銭座の閉鎖

第十一章 享保期、大坂難波銭座の鑄銭

一 従来の見解と典拠史料／二 通説の問題点／三 「古記録」所収史料による再検討

第十二章 真鍮四文銭の鑄造と流通

一 第一次鑄造高の再検討／二 真鍮四文銭の流通域終章 まとめと展望

近世貨幣の特質／近世貨幣の終焉

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-533-6860 fax. 075-531-0009
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票

発行：思文閣出版

（京都 取引コード 3402）

冊数	冊	日本近世貨幣史の研究	本体6,800円（税別）	ISBN978-4-7842-1848-6
お名前		tel		
		e-mail		
ご住所	〒			
送本方法	代引	（書籍代＋消費税＋送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担） ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎		



本書HPのQRコード

※住友史料叢書

小葉田淳／朝尾直弘監修／住友史料館編

1620年代から大坂で銅の精錬を業とし、一時世界銅産市場においても重要な位置を占めた住友家は、その後金融・貿易などをも手がけ、近代の財閥につながる豪商の一典型である。その鉱業史料は、質・量ともにわが国屈指の基本史料であり、本叢書は1万数千点にのぼる近世史料のうち重要で継続する記録類を中心に編集。

▶A5判・平均400頁／既刊30冊 揃本体276,000円(税別)

住友別子鉱山史〔全3巻〕

小葉田淳総監修

上巻では元禄4年の開坑より明治32年、いわゆる旧別子時代の終わるまでを取扱、下巻はそれ以後閉山するまでと更にその後の補遺を記述し、別巻は別子銅山史上の事跡を理解する助けとなる図版・写真・史料等を収載した。開坑300年記念出版。

▶B5判・総1500頁／本体73,000円(税別) ISBN4-7842-0643-4

※貨幣と鉱山

小葉田淳著

日本経済史研究の泰斗が中世から近世にいたる貨幣と鉱山に関する論考を集成。【内容】近世、銀・金の海外流出と銅貿易の動向／日本中近世の貨幣事情／領国武田氏の幣制と家康の幣制の確立／佐渡鑄造の金銀貨、とくに印銀通用について／近世鉱山史料について 他

▶A5判・300頁／本体7,800円(税別) ISBN4-7842-1004-0

近世日本の銅と大坂銅商人

今井典子著

大坂の銅商人社会が成立・変容する過程を軸にして、銅の生産・流通の歴史を通覧。住友家文書や初村家文書など関連史料を丁寧に読み解き、長崎貿易の動向・幕府の統制・相場の変動なども視野に入れながら論じた本邦初の銅の近世通史。

▶A5判・316頁／本体7,500円(税別) ISBN978-4-7842-1805-9

大航海時代の日本と金属交易

別府大学文化財研究所企画シリーズ③

平尾良光・飯沼賢司・村井章介編

最新の鉛同位体比分析の成果から、日本の銅生産や中世～近世日本の金属流通のありよう、南蛮貿易の意義などに新たな視角を提示する。巻末に戦国時代関連資料の鉛同位体比一覧を掲載。

▶B5判・224頁／本体3,500円(税別) ISBN978-4-7842-1768-7

※近世後期瀬戸内塩業史の研究

山下恭著

塩業と醤油業における開発・経営・塩専売制・流通問題を細かく分析し、さらに塩業における燃料問題と労働条件を数量的に解明した基礎的研究の一作。【内容】近世後期赤穂前川浜の開発／近世後期龍野醤油醸造業者の塩田経営／龍野藩網干新在家浜と醤油造元 ほか

▶A5判・300頁／本体6,000円(税別) ISBN4-7842-1287-6

今村家文書史料集〔上巻 中世～近世編〕

今村家文書研究会編

戦国期以来、京都近郊の伏見街道沿いで地域の有力者として代々続いてきた、今村家に伝えられた文書群の翻刻史料集。上巻には中世～近世、下巻には近代の史料を掲載し、文書全点の目録および絵図類の高精細画像とトレース図30点を収録したCDを両巻に収める。

▶B5判・284頁／本体8,800円(税別) ISBN978-4-7842-1830-1

一九世紀の豪農・名望家と地域社会

福澤徹三著

19世紀の豪農・名望家と地域社会の関係を、上位権力(領主など)と都市と取り結ぶ関係にも留意しながら総合的に検討することにより、近世・近代移行期の特質を解明するための地域社会論を提起する。

▶A5判・330頁／本体6,000円(税別) ISBN978-4-7842-1642-0

住友の歴史〔全2巻〕

朝尾直弘監修／住友史料館編

近世初頭から銅の精錬を業とし、その後金融・貿易などをも手がけ、近代の財閥につながる豪商の一典型である住友の歴史をわかりやすく紹介。連続と受け継がれる住友精神の源泉がここにある。

上巻▶46判・286頁／本体1,700円(税別) ISBN978-4-7842-1703-8

下巻▶46判・322頁／本体1,700円(税別) ISBN978-4-7842-1762-5

※日本銅鉱業史の研究

小葉田淳著

金銀山の個別の史的研究を集成した、『日本鉱山史の研究』(学士院賞)、『続日本鉱山史の研究』につづく本書には、足尾・面谷・別子など日本を代表する鉱山の個別の史的調査研究に加え、付篇として産銅に関する近世の銅貿易と鑄銭についての論稿を収めた。

▶A5判・868頁／本体19,000円(税別) ISBN4-7842-0760-0

近世鉱山社会史の研究

荻慎一郎著

鉱山社会史研究の視点から、従来の研究で欠落していた支配・経営構造、技術受容と生産体制、労働組織、鉱山法や住民の社会生活などの実態を大蔵金山・院内銀山などの一次史料を通して明かす先駆的な業績。第7回高知出版学術賞受賞。

▶A5判・640頁／本体12,800円(税別) ISBN4-7842-0900-X

三木金物問屋史料

永島福太郎編

三木金物仲買問屋「作清」黒田清右衛門家の近世史料を主体に、仲買問屋「道善」井上善七家、三木市宝蔵文書・市立図書館所蔵文書から金物関係史料を収録、解説と研究5篇を付した。

▶A5判・700頁／本体10,000円(税別) ISBN4-7842-0284-6

近世日蘭貿易史の研究

鈴木康子著

思文閣史学叢書

近世日蘭貿易における日本輸出品の生産から販売までを、個別商品の輸出状況の調査、一定期間の輸出品全体の把握、日蘭貿易状況に現れた国内外の諸情勢という三つの複合的な視点から詳細に追究し、近世における日蘭貿易の状況と推移を明かす。

▶A5判・480頁／本体9,600円(税別) ISBN4-7842-1178-0

近世吉野林業史 オンデマンド版

谷彌兵衛著

いま日本の林業は存亡の危機に直面している。吉野の地に生まれ、林業とそれに携わる人々の浮沈を間近に見て育った著者が、吉野林業を初めて通史的にとりあげ、その光と影を史料に基づいて実証的に明らかにする。初版2008年。

▶A5判・540頁／本体11,100円(税別) ISBN978-4-7842-7001-9

角倉一族とその時代

森洋久編

近世の大商人・事業家で知られる角倉一族。本書は現代の角倉イメージにとらわれず、文化・技術の総体の中で近世の吉田・角倉一族の業績を俯瞰的に検討。多彩な分野の研究者のみならず、近世の技術の継承者たる職人・技術者も含む26名の論考を収録する。

▶A5判・628頁／本体8,800円(税別) ISBN978-4-7842-1797-7

畿内の豪農経営と地域社会

渡辺尚志編

18世紀末以降、河内国丹南郡岡村(現藤井寺市)の庄屋を世襲した豪農・地方名望家である岡田家の文書1万数千点を多角的に分析し、畿内における村落と豪農の特質を経済・社会構造の観点から解明する。

▶A5判・508頁／本体7,800円(税別) ISBN978-4-7842-1385-6

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。